

土・まち・みどり

通信 第52号

2013.8.6

発行 NPO 法人土とみどりを守る会

連絡先 6421-2118 (事務局)

CONTENTS ◆5月のつどいレポート ◆シェア奥沢について ◆おくさわ今と昔 ◆奥沢の園主を訪ねて
◆第8回フラワーアレンジメント講習会報告 ◆活動報告 ◆金からのお知らせ

5月つどいレポート

総会・ミニ園遊会

5月29日に例年通り、地主さんのご厚意でお借りした空き地で、総会・ミニ園遊会を開催しました。総会では昨年度の活動決算報告、今年度の活動計画、予算案が承認されました。当日は日差しが強くなることが予想されたので、はじめての試みとして、交和会からテントを借りました。総会出席者は皆テントの中で参加し、ミニ園遊会はテントの中に歓楽の場を設けたので、お知り合いの輪を広げる効果もあったようです。(堀内)



シェア奥沢について

住所:世田谷区奥沢2-32-11 (堀内宅隣接)

電話番号: 6421-2118



堀内(土とみどりを守る会代表理事)の自宅の一部を「シェア奥沢」として開放することになりました。旧御車村の中心に位置する古住宅で、当時の奥沢の風情を皆様に味わっていただきたいと思います。

地域に開かれた最初の催しとして、来る8月24日(土)午後2時~5時頃まで、「クラシック音楽を楽しむ会」を開催します。解説つきで、音楽(レコード)とオペラ録音(ブルーレイ)をお楽しみいただきます。(参加費:茶菓つき500円)

万が一、定員オーバーとなった場合は、入場をお断りすることがありますので、事務局にあらかじめお申し込みされることをおすすめします。(電話6421-2118)

シェア奥沢は「ケールシェアスポット」として登録されていますので、開放日には、お散歩の途中などにお立ち寄りいただき、どなたでも楽しんでいただくことができます。

開放日や催しはシェア奥沢のホームページでお伝えします: <http://share-okusawa.jp>

おくさわ今と昔

「生活環境の移り変わり…」

奥沢 2 丁目 小田島 鏡子

転居してきた時代は、昭和 47 年田中内閣の「日本列島改造論」で地価が高騰し、48 年には円が変動相場制に移行し円が急騰 10 月にはオイルショック、ガソリン・トイレトーパー等の品不足、買いだめ騒動、49 年には狂乱物価等世の中の大きな変わり目のころだった。奥沢区民センターや図書館、児童クラブ(今の子育て広場)が開設した頃でもある。印象に残っている景色は一面にサツキが咲きこぼれていたお宅や紅白の梅、桜、槿、百日紅等きれいな花を咲かせる樹木がそこかしこにあり、紫の花大根が目を楽しませてくれた。カエルをしばしば目にし、青大将には怖くなり、塀を行き来するヤモリをジッと観、ネズミはパチンコ(鼠捕器)で仕留め天日に晒してゴミに出した記憶がある。

九品仏川緑道(49 年に保育園の前の目黒区側、53 年に八沢川前の世田谷区側)、53 年に奥沢 2 丁目公園が整備され桜や藤、金木犀等樹木の花を楽しむ場所が増えてきたが、平成に入って個人宅の緑は減ってきたような気がする。今も変わらない奥沢神社の緑はまちの貴重な資源である。トイレを水洗に替えても下水未整備で直接放流できず浄化槽を設置しなければならなかった。側溝の掃除と蚊の幼虫であるぼうふらを退治するために、配付されるスミチオン乳剤を撒いていた。

ゴミは収集場所にポリバケツで出すことになっており、回収の問題に共働きの我が家は随分困った。後に黒いビニール袋でも OK、分別収集にあわせポリエチレンの半透明袋の使用、カラス対策でゴミネットや組み立て式の箱等、、時代環境に合わせて変化したが、資源の有効活用・町の美化ともに区民と行政の協働が大切と思う。

生鮮食品の買い物はサンケイビルの店やピーコックに行っていたが昭和 56 年に東急ストア自由が丘店がオープンし、医療機関も近くにあり本当に住み易いまちである。これからもこの環境が維持できるようにささやかながら努力していきたい。

(このシリーズでは奥沢に長くお住まいの方、新しく移ってきた方々など、毎回住民の方が登場し、この街にちなんだエピソードを語っていただきます。)

「奥沢の人々」

奥沢 2 丁目 大房 敏

毎日うだるような暑さの続く今日この頃暑さにもめげず健康であることに感謝しながら毎日仕事に励んでいます。

私のサロンは駒沢店と上野毛店とこの奥沢店と 3 店舗のサロンを営業しています。奥沢にサロンを構え今年で 13 年目になります。その中で私の感じた奥沢は人懐こくてどこか穏やかな人が多くいるような気がします。なぜだか考えてみると多分御年配の人が多いのと一つ一つの家がゆったりしていて緑が多いせいなのかと感じます。

私は奥沢六丁目に自宅があり毎朝 6 時に起き、その日の気分によって九品仏の浄真寺を周り、緑道に出て緑が丘を周り、奥沢神社で御参りをして自宅に戻るというコースと、多摩川の土手に沿って浅間神社で御参りをして田園調布を抜け、自宅に戻るというコースの約 1 時間のジョギングをしています。その中で一番感じることは、季節はもちろんです。特に女性の元気さと笑顔で挨拶を交わす事で一日気持ちよく生活ができます。

私のサロンに今年の 2 月で 101 歳の誕生日を迎え少し耳が遠いけれども、とても元気で私のサロンにも十日に一度お見えになります。その御婆様は関東大震災、東京大空襲などを経験しながら今でも元気に昔の事の話聞かせて頂きその時代を肌で感じながら私も若い人に伝えていきたいと思えます。

そんな中で毎年行われている奥沢神社のお祭りを感じることは、こんな元気でたくさんの子供達がいただんだと感じます。一体あの子供たちは普段どこにいるのかなと考えると、きっと家の中でテレビゲームやスマートフォンで遊んだり、もしくは塾通いの毎日なのかと思うと、本当にこれでいいのかなと感じながらも、時代に逆らうこともできず少しかわいそうな気がします。私は来年で 60 歳になりますが、私の子供の頃は、ランドセルを玄関から放り投げ、グローブやバットをもって野球をするか公園や川などで魚釣りや昆虫を取ることが一番の楽しみで、その遊びの中からもいろいろと大切な事を学んできたような気がします。私の子供も 25 歳と 28 歳の姉妹がいますが、実際に彼女たちもどうだったかなと考えてみると、実は今の子供たちとさほど変わらない気がします。そんな中で自分の子供を含めもっと大切なことを伝えていかなければいけない気がします。

奥沢の歴史を訪ねてV

常磐姫の頃以前の奥沢②

前回戦国時代迄の奥沢と早春のつどいレポートに鶯草伝説を書いたので、今回は奥沢城址(現浄土宗九品山唯在念仏院浄真寺)についてまとめたい。

浄真寺は境内12万㎡(3万6千坪)を要し、武蔵野の面影を残しているが、これは4代将軍徳川家綱公治世延宝6年(1678年)珂碩(かせき)上人が開山したとき、廃城となり荒れ果てていた奥沢城址を幕府から賜った為で、昔の様子を良く保存することができたと言える。現在は公園予定区画となっている。

現浄真寺は旧奥沢城の内曲輪をそのまま寺域にし、本丸、二の丸、三の丸等に相当すると思われる区域に別れている。

一方外曲輪にあたる場所は、言い伝えによると産業能率短期大学の辺りに北門があったと言われている。北門までの間は中丸、下中丸、北側の湿地帯は台場、影谷、山下、城向、鶯の谷、南側の台地から国分寺崖線にかけて城前、千駄丸、大坊野、原、北原、東原等の古地名が残されている。

特に中丸、城向、城前、千駄丸等はここに城があったことを伺わせる地名である。千駄丸には砦がおかれたといわれている。多くの物資を多摩川で運び、荷揚げの木材や荷物を一旦千駄丸に集め、奥沢城や世田谷城に運んだのではないかと考えられている。

近くには宮入の渡し、等々力には野沢の渡し等が古くからあるが、室町時代には国分寺崖線近く迄多摩川が蛇行していたと考えられ、下丸子駅近くの光明寺池、八丁土手、明神池跡はその名残である。

さて、内曲輪を見てみると、今の浄真寺と殆ど重なっている。参道の両側に空壕があったようだが、幅2間、深さ9尺と狭く、奥沢城のものとは思えない。古老の話では後世に掘ったものだという。

総門をくぐると広い場所にでるが、三の丸ではないだろうか。右手東側が東門で鶯の里、九品仏緑道、自由が丘に通じている。中学校時代下校時に友人達と自由が丘経由でおしゃべりしながら帰った道だ。

左手西側山門の先が本丸で、山門南側に土塁跡が残り、奥沢城址の碑が建つ。この土塁は南側、西側、北側、東側迄続くが、東側は大部分削平されて今はない。南側土塁の外、現在のクロマツの通路全体と西側の土塁脇も道路の下が堀になっていたと考えら

(私たちの住むまち奥沢の成り立ちはどうだったのでしょうか、調査結果をシリーズで紹介していきます。)

れるが、北側は土塁が二重になっている。墓工事の折、堀跡が柔らかいロームの為墓が沈むので、全部掘って支え直したと石材やさんの話がある。堀の断面形は薬研堀状で幅5間、深さ2間であった。

北側の土塁を横切ると墓域になり、昔は二の丸と聞かされていた。墓域の北側は5m程度の崖線になっている。崖下は奥沢の底無したんぼの湿地帯であったが、今は民家や公園、緑道等になっている。九品仏池は近年東急が掘ったもので奥沢城とは関係ない。中学校時代八幡中の校庭南東側は普段からぬかるんでいて近くに溜池があった。九品仏川跡はそこから南下し、大平農場脇の緑道となり、やがて等々力駅近くの逆川跡に繋がり、矢沢川にそそぐ。

居館跡は本丸中央の本堂辺りと思われるが発掘はされていない。八幡中学校校舎南側壁いっばいにタイル画で鶯草伝説が描かれており、墓域からも最近では上半分だけが見られる。遠くに北門があった産能短大が見え、武蔵野台地荏原台が広がっている。

(赤松)



浄真寺 九品仏 (江戸名所図絵から)



浄真寺配置図 (世田谷の中世城塞から)

第6回フラワーアレンジメント講習会報告

- ・日時：2013年6月29日(土) 13:30-16:00
- ・場所：奥沢区民センター2階会議室
- ・テーマ：もうすぐ七夕☆久し振りに星に願いを☆
- ・講師：佐藤 暁美 (マリアワデザインスクール講師)

会議室には、青笹の香りが満ち花材を配っていた。中にも笹のふれあうかすかな音が加わりました。今回の参加者は18名。いつものように、佐藤先生のテーマについての説明から講習会は始まりました。

青笹の小さな七夕飾りを中心にペットボトルに夏の花ひまわり、ほおずき、レモンリーフ、ブミラ等の花材を使って作品の制作です。今回は笹の小枝を使った花くぼりの技法を伝授していただきました。七夕飾り用には、ミニ短冊、星飾り等可愛らしい材料が用意され、みなさんの顔がぱっと童心に戻ったようにやさしく感じられ、会場も楽しい雰囲気があふれていました。私は飾り物の制作に指先が、思うにまかせずもどかしさを感じながら取り組んでいました。私事ですが七夕は子どもの頃の大事な夏の思い出のひとつです。

月遅れの8月6日の早朝、近在の農家の方々がリヤカーに沢山の竹笹を積んで町に売りにやってきました。サワサワと道を掃くようにひきずってくる音と「笹竹いりませんかあー」という声で目ざめるのでした。5、6mもある長い竹笹を売りにくるのです。どの家も競って家族を動員して大きな七夕飾りを作りました。色紙を貼り合わせ長い長いくさを何本

も作りました。様々な飾りものを家族それぞれが一年の願いを込めて時間をかけて取り付けました。七夕は私達の町の一大行事でした。町の表通りには豪華で心躍る細工の連なる七夕飾りが賑やかに飾られ、私達の住宅地には家族の心をひとつにした七夕飾りが取り付けられました。町をあげてのお祭りでした。七夕が終わると、先と枝を落とされた青竹は、新しい物干竿として生活の道具として残り役に立っていました。我が子に思い出と共にこの歳時記を語り継ごうと頑張ってもピンとこないようです。

完成作品の講評をいただきみなさんのどの顔も本当に楽しい時間を共有した満足感であふれていました。今日のペットボトルに活けた七夕飾りにはそれぞれにちょっぴり子供の頃の思い出が入っているに違いありません。制作に無心に取り組んでいるみなさんの顔がとても印象的でした。お世話役の皆様、準備後片付け等いつもありがとうございました。

(奥沢3丁目、棚橋洋子)



講習風景



作品例

活動報告

●6月30日にまちめぐりの下見で理事5名が白山、本郷、春日界限に、一葉、啄木、賢治に縁の場所を訪ねました。明治文学の歴史と街並みを見、当会のまちめぐりに適合しているか、コースは参加者が歩き通せるか調べるためでした。既に過去の町とも思われたその地域は、清掃が行き届き、植木鉢の植栽も丁寧にしつらえられた風景で、路上にごみが絶えない奥沢とは随分違った感じでした。(鈴木)

会からのお知らせ

●今年のまちめぐりは、9月28日(土)に行います。樋口一葉をはじめ明治の文人たちの住んだ当時の面影が今も残る本郷のまちなみをそのころに思いを馳せ歩きます(同封のチラシご参照)。

●土とみどりを守る会はいつでも新会員を募集しています。会の活動を支える年会費は1口1,000円です。活動に直接参加されなくても、会活動を継続的

にご支援頂けると幸いです。どうぞ御協力をお願いします。入会のご連絡は下記へどうぞ。

土とみどりを守る会 連絡先

世田谷区奥沢 2-32-11 堀内正弘 5701-5901

世田谷区奥沢 2-19-9 長瀬雅義 5729-0126

世田谷区奥沢 2-18-6 鈴木 仁 3723-6659

ホームページ : <http://tsuchimidori.net>

e-mail : info@tsuchimidori.net